様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	福岡南美容専門学校
設置者名	学校法人 西村学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://nanbi.jp
収支計算書又は損益計算書	https://nanbi.jp
財産目録	https://nanbi.jp
事業報告書	https://nanbi.jp
監事による監査報告（書）	https://nanbi.jp

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	美容師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2010 単位時間/単位	単位時間 750/ 単位	単位時間 /単位	単位時間 1260 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2010単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		197人	0人	9人	8人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）シラバスに沿って実習並びに講義の方法と授業計画を実施。
成績評価の基準・方法 （概要） 授業科目の成績認定は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘定して行う。ただし、出席時数が履修時間の10分の8に達しない者は、授業出席時間数、技術評価、知識評価の三項目で認定される。 ＜出席時間数＞出席時間数が80%を下回る場合、成績の如何に関わらず不認定となる。 ＜技術評価＞国家試験課題、理容科は、カット、シェービング・顔面処理、美容科は、ワインディング・オールウェーブセッティング・カット。 定期試験で合格点に達した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。 ＜知識評価＞学科科目を対象とする。定期試験に合格した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>第2学年で習得する教科の認定。 卒業試験の合格。 学費並びに納入金の納入確認。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>特待生制度 (学費の支援)</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	0人 (0%)	55人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 美容業界、結婚式場、ネイルサロン、エステサロン			
(就職指導内容) 校内セミナー、インターンシップ、履歴書・面接指導・企業から届く求人案内、求人票の見方指導・ビジネスマナー・就職指導の授業・進路指導カウンセリング			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 美容師国家試験、AJESTHE フェイシャルエステ、JNEC ネイリスト検定、JMA 日本メイクアップ技術検定、山野流着装初中伝・奥伝、パーソナルカラリスト検定、日本ヘアケアマイスター検定等			
(備考) (任意記載事項) 【希望者のみ】 美容国家試験			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
139人	5人	3.6%
(中途退学の主な理由) 学習意欲減退 (4名)、持病の悪化 (1名)		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセラーによる相談、クラス担任制による指導、個別面談等の対処		

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	理容師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2010 単位時間/単位	単位時間 750/ 単位	単位時間 /単位	単位時間 1260 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2010 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		16人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）シラバスに沿って実習並びに講義の方法と授業計画を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目の成績認定は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘定して行う。ただし、出席時数が履修時間の10分の8に達しない者は、授業出席時間数、技術評価、知識評価の三項目で認定される。 <出席時間数>出席時間数が80%を下回る場合、成績の如何に関わらず不認定となる。 <技術評価>国家試験課題、理容科は、カット、シェービング・顔面処理、美容科は、ワインディング・オールウェーブセッティング・カット。 定期試験で合格点に達した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。 <知識評価>学科科目を対象とする。定期試験に合格した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2学年で習得する教科の認定。 卒業試験の合格。 学費並びに納入金の納入確認。
学修支援等
（概要） 特待生制度（学費の支援）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 理容店
(就職指導内容) 校内セミナー、インターンシップ、履歴書・面接指導・企業から届く求人案内、求人票の見方指導・ビジネスマナー・就職指導の授業・進路指導カウンセリング
(主な学修成果(資格・検定等)) 理容師国家試験、AJESTHE フェイシャルエステ、JNEC ネイリスト検定、山野流着装初中伝・奥伝、日本ヘアケアマイスター検定等
(備考) (任意記載事項) 【希望者のみ】 美容国家試験

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	4人	25%
(中途退学の主な理由) 経済的困難(2名) 学習意欲減退(2名)		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセラーによる相談、クラス担任制による指導、個別面談等の対処		

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	トータルビューティ 一科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2000 単位時間/単位	単位時間 300/ 単位	単位時間 /単位	単位時間 1700 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2000単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		60人	0人	3人	5人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）シラバスに沿って実習並びに講義の方法と授業計画を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目の成績認定は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘定して行う。ただし、出席時数が履修時間の10分の8に達しない者は、授業出席時間数、技術評価、知識評価の三項目で認定される。 ＜出席時間数＞出席時間数が80%を下回る場合、成績の如何に関わらず不認定となる。 ＜技術評価＞国家試験課題、エステ、メイク、ネイル、ブライダル、着物着付け、アロマ。 定期試験で合格点に達した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。 ＜知識評価＞学科科目を対象とする。定期試験に合格した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2学年で習得する教科の認定。 卒業試験の合格。 学費並びに納入金の納入確認。
学修支援等
（概要） 特待生制度（学費の支援）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	0人 (0%)	26人 (100%)	0人 (0%)

<p>(主な就職、業界等)</p> <p>百貨店美容部員、結婚式場、ネイルサロン、エステサロン、理美容店</p>
<p>(就職指導内容)</p> <p>校内セミナー、インターンシップ、履歴書・面接指導・企業から届く求人案内、求人票の見方指導・ビジネスマナー・就職指導の授業・進路指導カウンセリング</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>AJESTHE 認定・上級エステ、JNEC ネイリスト検定、JNA ジェルネイル検定、JMA 日本メイクアップ技術検定、山野流着装初中伝・奥伝、パーソナルカラリスト検定、ABC ブライダル検定、アロマコーディネーター検定 他</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>【希望者のみ】</p> <p>美容師国家資格、理容国家試験</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	3人	5.7%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学習意欲減退(3名)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>カウンセラーによる相談、クラス担任制による指導、個別面談等の対処</p>		

① 学科等の情報 ※令和7年度学科新設

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
衛生		衛生専門課程	ヘアメイク科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2000 単位時間/単位	単位時間 300/ 単位	単位時間 /単位	単位時間 1700 /単位	単位時間 /単位
			2000単位時間/単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人		22人	0人	3人	5人	8人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）シラバスに沿って実習並びに講義の方法と授業計画を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目の成績認定は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘定して行う。ただし、出席時数が履修時間の10分の8に達しない者は、授業出席時間数、技術評価、知識評価の三項目で認定される。 ＜出席時間数＞出席時間数が80%を下回る場合、成績の如何に関わらず不認定となる。 ＜技術評価＞メイク技術、ヘアメイク作品作り・撮影、韓国語の語学試験。 定期試験で合格点に達した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。 ＜知識評価＞学科科目を対象とする。定期試験に合格した者を認定。合格点に達しない場合は、追試験を受け、合格した者を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2学年で習得する教科の認定。 卒業試験の合格。 学費並びに納入金の納入確認。
学修支援等
（概要） 特待生制度（学費の支援）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
一人 （ -%）	一人 （ -%）	一人 （ -%）	一人 （ -%）

<p>(主な就職、業界等)</p> <p>美容・メイク業界、ヘアメイク事務所 (予定)</p>
<p>(就職指導内容)</p> <p>校内セミナー、インターンシップ、履歴書・面接指導・企業から届く求人案内、求人票の見方指導・ビジネスマナー・就職指導の授業・進路指導カウンセリング</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>美容師国家試験、JMA 日本メイクアップ技術検定、山野流着装初中伝・奥伝、TOPIK 韓国語検定 他 (予定)</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>R7 年度が初年度の為、2 学年の在籍人数は 0 名。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
カウンセラーによる相談、クラス担任制による指導、個別面談等の対処		

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
美容師科	200,000 円	840,000 円	370,000 円	その他 2 年次 240,000 円
理容師科	200,000 円	800,000 円	350,000 円	その他 2 年次 240,000 円
トータルビューティナー科	200,000 円	840,000 円	410,000 円	その他 2 年次 200,000 円
ヘアメイク科	200,000 円	840,000 円	410,000 円	その他 2 年次 200,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
特待生制度 (学費の支援)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://nanbi.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
常に教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育活動及び学校運営の状況について、自己点検・評価会議を行なう。 評価結果を踏まえその評価が適切に行われているか、生徒の主な就職先の役員 (1 名)、卒業生 (1 名)、地域住民 (2 名) が学校関係者として評価する。 学校関係者評価を踏まえ、校長が責任の下、改善方策を速やかに実行する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
美容室経営	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	企業側委員
美容室経営	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	卒業生
不動産・飲食店経営	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	地域住民
地域住民	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
公表方法 - https://nanbi.jp 名称 - 学校案内 入手方法 - ホームページより資料請求、又は来校。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://nanbi.jp
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H140320300067
学校名 (〇〇大学 等)	福岡南美容専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人西村学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		59人 (0) 人	59人 (0) 人	63人 (0) 人
内 訳	第Ⅰ区分	36人	36人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	12人	12人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	11人	10人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	0人	1人	
	区分外 (多子世帯)	0人	0人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				63人 (0) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が「 廃止 」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）</small>		0人	0人
出席率が「 廃止 」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「 停止 」となった場合を除く。		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	2人
3月以上の停学	0人
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。